

收入、其の生活は如何であらうか。彼等は實に人間らしき生活さへなし得ない境遇に置かれて居るのである。

而して労働者は一面に於て國富が非常な程度で増殖してゐることを知つてゐる。一千八百七十五年には八十五億四千八百磅であつたのが、一千九百五年には百三十九億八千六百萬磅に増加せることを知り、然も到る處で成金其の資澤を見せつけられて居る。

かういふ有様であるからして、彼が一度び不満の教義を聞かされ

るこ、恰も響の聲に應するが如く直ちに其鳴する。然しそれは寧ろ當然の話で何等異とするに足らない。而して此れ等所謂不満の教義は、社會改良家、或は自稱改良家の口より發せられる。彼等は叫ぶ曰く「税率の改正、賃銀の増加」曰く「土地に税をかけて人民を自由にせよ」曰く「社會主義、安易」

かくの如くして年月を経て來るが、労働者の生活は一向改善せられない。彼の不満は益々深く根ざし、終に彼が憤然として起つときは、最早其の爭闘がたゞひ自分に不利であつても、亦彼の首領が輕率な動作を戒めても、彼はそんなここには耳を藉さず、斷乎として罷工者中の一人となるのである。

其の時、ストライキは果して労働者の状態を改良すべき最良の方法であるかどうかといふ事を質問しても、それは最早や無用のことである。何故なれば數千の職上の經濟的智識は其の不満の程度から

